

アッガラーム・アレイクム

イスラマバード日本人学校
教諭 島山 稔

IJS Day に向けて

IJS というのは、「Islamabad Japanese School」の略で、本校のことをよく省略してこう呼んでいます。「IJS Day」は本校の大きな行事のひとつで、現地校との交流と学芸会を兼ねたものになっており、今年は10月の31日に予定されています。4つの現地校の生徒を招待し（各校10名程度）、日本の遊びと一緒にやるなどの交流をしたあと、「International Cultural Festival」と銘打って、各校で出し物を披露します。本校は例年、和太鼓と民舞を披露しています。

現地校の様子

英語教員の役割

この4つの招待校へ先日訪問をし、具体的な依頼をしてきました。ちなみに英語教員は、こういった涉外関係でも役割を担うことが求められます。

この訪問は依頼のためのものですが、校内を案内してくれた学校もあり、たいへん貴重な経験でした。平日はびっちり授業が入っているため、なかなか現地校を見る機会というのはないのです。今回もなんとか時間割をやりくりしてもらって行くことができました。

私立学校・公立学校

まず伝えておかなければならないのは、4校がすべて Private School（私立学校）だということです。公立学校と大きく違うのは、授業料はもちろんですが、すべて英語で学校生活を送られていることです。4校の中には、2才からクラスをもうけているところもありました。幼少期から英語で教育を受けるのですから、どの子もたいへん流ちょうに英語を話すことができます。したがって、少しでもお金に余裕のある家庭は、Private School に入れるそうです。

教員

先生方の多くは女性でした。また、校長先生は4校とも女性でした。この国は男性は外で働き、女性は家事に従事するという傾向が強いので、たいへん珍しい職場だと言えます。女性が多い理由は、今後詳しく調べていきたいと思いますが、教員の給料が安いのがその一因だと思われます。

お話ができたのは、校長先生とだけで、一般の先生とはほとんど関わることができませんでした。招待校への依頼のために行ったので、しかたありません。どの校長先生も、しっかりとした教育理念をもたれているなという感想をもちました。4人のうち、2人は研修で日本に行ったこともあると言ってました。

児童・生徒

写真でわかるように、制服のある学校が多いです。それもなかなかおしゃれな制服です。中学年以上の学級はどの学校に行っても、全員が起立して迎えてくれました。規律やマナーの指導が重んじられているなと感じました。一クラスの生徒数は多くて30名程度でした。教室はきれいに整頓され、掲示物も適度に張られていました。授業をじっくり見るような時間がなかったのが残念です。

なお学年は学校によって異なり、ほとんどが日本の小学校と中学校を合わせたくらいの生徒を抱えています。中には2才から17才までの学級を保有する学校もあり、そこは低学年と高学年にわかれた障がい児学級もありました。

校舎

今回訪問した学校の校舎はすべて一般の家屋を改造して利用しています。それで敷地面積は非常にせまいです。グラウンドもありません。しかし、休み時間になると児童は楽しそうに、そのせまい中でいろんな

遊びをしていました。

これはパキスタンの本当の姿ではありません

パキスタンはまだまだ識字率の低い国です。すなわち国民に十分な教育が行き届いてないと言えます。首都イスラマバードは、外国人やお金に余裕のある人が多く、今回紹介している学校は、パキスタン全土の学校の中ではきわめて特殊な学校かも知れません。どうぞ、そのことをふまえた上でお読み下さい。(そう自分に言い聞かせながら文を書いています)



校門にて



どの学校もレセプションがあります



集会のための線がありました



校長室



売店



実験用のバーナー



全員起立



ここのクラスも全員起立



やっぱり全員起立



手を挙げているのは昨年訪問で来た児童



他の学校に行ってもやっぱり全員起立



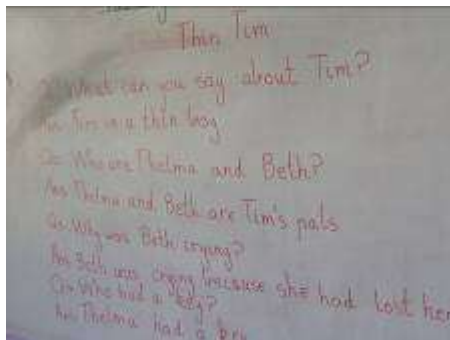
低学年は「あのおじさんだ〜れ？」という反応
装飾がすてきな学級でした



4才児の学級 ~ちゃんとすわってます~
このクラスもちろん英語でやっています



コンピューターもあります
壁にあるのは I J S からの贈り物



授業はすべて英語です



数学むずかしそうですね



お母さんへのプレゼントを作っていました



「わたしの作品、すてきでしょ！」